



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



学位申請に関する規則の変更

歯学研究科運営委員会委員長 久光 久

本年4月から前委員長の中村雅典教授の後任として歯学部大学院運営委員会委員長を拝命しました。浅学菲才であり経験も浅いため微力ではありますが、委員会委員の先生方と力を合わせて歯学部大学院のレベルアップと活性化に向けて努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



昨今、官僚においては「居酒屋タクシー」が大問題となり、また大分県教育委員会の教員採用試験や横浜市立大学での学位取得に関連した不祥事が大きく取沙汰されております。

昨近、個人情報の保護が求められる一方で、公正さが求められ、ガラス張りの情報公開が求められる厳しい時代になってきたことを強く痛感しております。

このような情勢の中で文部科学省からは各大学に、学位審査に係わる透明性・客観性の確保及びコンプライアンス体制の確立を求めて、「厳正な学位審査体制を確立するように」との通達が来ております。この通達に従って、委員会では「昭和大学歯学研究科学位申請等に関する内規」の見直しを行って参りました。見直しの主な内容は、社会人特別選抜の位置づけの明確化とともに、**審査委員会**に関して「学位申請者の指導教員が主査1名、副査2名を運営委員会に推薦する」、「運営委員会は審査委員を研究科委員会に上申し、承認を得る」、「学位申請者の指導教員は主査、副査に加わることができない」、また**論文の公開**に関して「論文申請者は学位が授与されるまでに運営委員会が開催する博士論文発表会(昭和歯学会総会、例会など)において学位論文の内容を報告しなくてはならない」などです。この内規は今年9月から施行されます。但し、論文による学位申請者(乙)に関しては来年4月からの適用となります。規則の変更点を十分に理解したうえで学位申請に臨んで下さい。

第5回ファシリテータ養成ワークショップに参加して

PBL委員 藤原 広

第5回歯学部ファシリテータ養成ワークショップが、6月7日に昭和大学旗の台校舎にて開催されました。参加者は15名(教授1名、准教授2名、助教11名、員外助教1名)で、タスクフォースは歯学部PBL委員長中村雅典先生およびPBL委員6名が務めました。またオブザーバーとして歯科医学教育推進室長片岡竜太先生に出席していただきました。今回のワークショップは、参加者の負担軽減を図るためプログラムの一部を簡略化し、お昼までに終わるように変更しました。簡略化した分、プレテストを実施するなど知識習得の効率化を図るよう工夫しました。当日は若手の先生から積極的な質問が飛び交う一方、教育経験の豊かな先生からはユーモアを交えた意見を述べていただくなど充実したワークショップとなりました。なお助教以上が全員受講した教室からは助教(員外)も参加していただくこととなりました。

最後になりましたが、ご協力いただいた先生方におかれましてはご多忙の中、ご参加いただき誠にありがとうございました。今後もPBLチュートリアルへのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



PFA国際歯学会奨学金を贈呈される!

教育委員長 佐藤 裕二

歯学部5年 高須玲美さんに対し、7月16日に歯学部全教授の前でピエールフォシャールアカデミー(PFA)国際歯学会日本部会橋本会長により奨学金が授与されました。PFAは1963年に米国で設立され、世界65カ国で7,000名の会員を擁する組織です。

このPFAで行われている事業の中の“各国の歯科大学・歯学部の学生の中から、学業成績に優れ且つリーダーシップをとり将来が期待される学生に奨学金を授与する”というものです。



教室紹介 歯科矯正学教室

歯科矯正学教室 榎 宏太郎

初代新潟大学教授であった福原達郎現名誉教授(昭和52年7月～平成5年3月)、東北大学よりの2代目柴崎好伸現名誉教授(平成5年4月～平成14年3月)を経て、平成15年12月から3代目教授として歯科矯正学教室を主宰させていただいております。

矯正歯科では昭和大学の医療系総合大学としての利点を活かし、治療を行っています。外科的矯正治療における歯学部口腔外科、補綴科との連携はもとより、口唇口蓋裂をはじめとする先天性疾患の歯科矯正治療では、昭和55年に発足した昭和大学口蓋裂診療班による密接した総合的チーム医療が高い評価を受けております。

一人として同じではない顎顔面形態、顎口腔機能を、より正確に診断することが長期に安定を得られる咬合の確立にとって重要となります。このため当科では低被爆歯顎顔面用コーンビームCT、筋電図など先進的な検査機器を応用しています。また、ブラケットを用いない新しい矯正装置は、矯正装置に対する審美性の要求の高まりに対しても応需できるものと思っております。

研究においても学内はもとより東京工業大学、早稲田大学、工学院大学をはじめとする学外機関とも先駆的な共同研究を進めています。様々な科学的研究の成果によって、臨床教育の充実が図られるとともに先進的な昭和大学でしかできない矯正治療を一層推し進め、多様化する患者様の期待に応えてまいりたいと思っております。



平成20年度選択実習を終えて

選択実習委員会委員長 山本 松男

歯学部選択実習が任意参加の形で試行されたのが平成17年度で、翌年18年度より歯学部6年次必修科目として実施され、本年度で3回目を終了しました。学外施設に派遣をするという点で、私たち昭和大学だけの問題ではなく、受入をしてくださった教育機関、医療機関の方々にも慣れぬ作業をお願いすることではじめて前進することができました。深く感謝申し

上げます。平成20年度は、3月31日から6月6日までの8週間に、学内各診療科・講座及び学外、海外を含む広い候補の中から興味のある2プログラムを選択する実習に参加してもらいました(1プログラムは2週間)。学内プログラムは実施26プログラムで延べ159人、学外受入23施設へ37人、海外プログラムはアデレード大学歯学部、南カリフォルニア大学歯学部、大連医科大学口腔医学院、天津医科大学口腔医学院へ5施設12人(6年生104人、合計208プログラム)と、大変広がりのある実習となりました。

報告会の中での学生からの感想に、慣れ親しんだ学内環境ではなく、異なった環境の中で歯科を見ることができたという意見が多かったのですが、学内プログラム(基礎科目)をとった学生からは「歯科病院で実際の患者さんに接した後に、基礎分野で明らかにしたい点を決めて自ら調べ、必要に応じて(後輩にあたる)学生実習にも参加し勉強し直すことで、「立体的な知識」が身に付いた。」という発言がありました。それぞれの学生が選択したプログラム、過ごした期間や場所は異なりますが、学生から「立体的な知識」という言葉を直接聞くことができ、学内、学外のプログラムを問わず、従来の歯学教育体系では十分とはいえなかった部分で新たな成果が出てきていることを実感しております。

選択実習ではその準備の過程でも社会的な対応を求められる場面が少なくありません。卒業後にはまさに社会の中で歯科医療という役割を担い、位置付けられて、そして社会の変化に適応し、社会に求められる歯科医師として活躍をしていくことが期待されているわけですから、歯科医師として研鑽を積むだけでなく、社会人としての、人間としての実力をつけてもらいたいと強く願っています。

選択実習が、学生一人ひとりの実力アップに少しでも貢献できることを願ってやみません。

昭和大学病院での実習を終えて

岩手医科大学歯学部6年 佐々木 貴子
宮本 真沙子

私たちは昭和大学で5月12日から5月23日と5月26日から6月6日の期間、臨床実習に参加させていただきました。

初めの1週間は美容歯科での実習でした。美容歯科では、4年生の授業や、レARNINGテクニックの実習、外来での治療のアシストなどをさせていただきました。私たちが想像していた美容歯科とは少し異なり、様々な症例にも対応している美容歯科という分野の幅広さに驚きました。

2週目はインプラント科での実習でした。インプラント科では、インプラント体埋入や粘膜移植の手術見学や介補、外来での治療のアシストなどをさせていただきました。インプラント体埋入などの手術見学をした

のが初めてだった私たちにとって大変興味深く、これまで学習してきた教科書での知識を、実際目の当たりにすることができ、理解をさらに深めることができました。

昭和大学は症例数が多く、患者様1人1人のモチベーションの高さ、口腔に対する知識の高さに大変驚きました。新しい環境での実習は、緊張もありましたが、とても新鮮で、実りのある実習を行うことができました。このような機会を与えてくださった岡野病院長をはじめ、山本教授、佐藤教授、その他多くの先生方、さらに何もわからない私たちに親切に教えてくれた昭和大学の学生さん達に心から感謝しています。

D6選択実習を体験して(学内)

歯学部6年 北詰 栄里

私は選択実習で、学外の医科系大学歯科口腔外科と、学内の口腔外科を選びました。学内で口腔外科を選んだのは、以前から口腔外科に興味を持っており、5年次の実習を通して口腔外科が担当する疾患の多様さを実感したことから、もっと多くの症例を知りたいと思ったからです。主に外来でアシストしながら見学を行いました。全身的疾患の既往がある患者様の場合など、知識を実際応用することの難しさを改めて実感するとともに、患者様の安全と感情・事情に配慮した治療の進め方を多く見学できました。また、5年次にも多く見学した抜歯の見学では、どのように歯を分割しながら抜くのかということ、自分で具体的に考えた上で先生の手技を見学することが少しできるようになり、より実践に向けた見学ができたと思います。また、外来時間外に、化学療法薬に対する癌細胞の反応を見るための培養実験を体験したり、特殊な色素を利用した実験法を見学するなど、今までテキストでのみ得ていた知識を、体験を通して理解することができました。まだまだ分からないことだらけで、もどかしい思いをするばかりですが、これからの学習において、今回の見学が、具体的に考え、理解する助けになることと思います。

最後になりましたが、実習させていただいた口腔外科の先生方に、感謝申し上げます。

アメリカ微生物学会に参加して

口腔微生物学教室 有本 隆文

平成20年6月1日から5日にかけて、アメリカ、ボストンにおいて第108回アメリカ微生物学会が開催され、我々は“Role of Lgt and Lsp in maltose uptake mediated by *Streptococcus mutans* lipoprotein MalE”という表題で参加・発表しました。総登録演題数は軽く2,000を超え、参加人数は数え切れない程でした(私のヒアリング能力が確かなら数万人といっていました)。我々が扱っている口腔連鎖球菌に関する研究

報告も数多く発表されており、より良い実験方法を学べたり、機能に関する新規の見解が得られたりと期待以上に成果のあった学会でした。そして、

それ以上に良かったのが、この発表を通じて他の参加者の方々と交流を持たれたことです。今回、偶然他の参加者の方と行動を共にする機会があり、その方の留学先を案内していただくことになりました。それは世界で初めてインシュリンを治療に用いたことで有名なジョシュリン糖尿病専門病院で、そこでは今でも数名の日本人の方々が、I型糖尿病のメカニズムを明らかにするための研究に携わっていました。このようなトップレベルの環境で適応できている方々と話が出来たことはとても貴重な体験であり、自身の現状を省みる良い機会となりました。また、別の参加者の方とは今回の発表をきっかけとして、帰国後、共同研究を行うことが出来たことも大きな収穫でした。

今後も学会発表では自身の研究成果をただ提示するのではなく、様々な意見を交換することで交流を深め、今以上に幅広い人脈が出来ればと思いました。

海外からの研修生

口腔生理学教室 前田 昌子

王丹(ワンダン)さんは当教室の鶴岡准教授の下で痛みの研究をするために4月に北京から来ました。来日して約4ヶ月が過ぎ、教室員ともだいぶ馴染んできました。

王さんは来日する前から日本語を勉強していたそうで、始めから日常会話には困らず、ここ数ヶ月でさらに日本語が上達しています。

明るい性格の彼女はすぐに打ち解け、実験の休憩をしていると私達に取り囲まれ、中国、北京、長春(王さんの故郷の中国の北の方にある町です)のことなどを話してくれる一方、私達は日本の文化、タレントさんのことなどを教えています。

先日は王さんのアパートに招待してもらい(正確には押しかけ)餃子パーティーをしました。粉から餃子の作り方を習い、具をつめて、他にも炒め物、揚げ物など手料理を作ってもらいました。来月も開催することが決定しています。王さんが帰る頃には私達もすっかり餃子作りが上手くなっていることでしょう。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

7月27日(日)－8月10日(日)

全日本歯科学学生総合体育大会

8月 2日(土) 歯学部オープンキャンパス

8月22日(金) 富士吉田オープンキャンパス

8月23日(土) 歯学部オープンキャンパス

9月 6日(土) 昭和大学歯科病院

臨床研修歯科医 採用試験

9月14日(日) 歯学部オープンキャンパス

9月23日(火)－25日(木)

歯科基礎医学会

D2歯科臨床・臨床入門について

D2歯科臨床・臨床入門 コーディネーター
山本松男

本年度、臨床参加型教育の初期段階カリキュラムの一つとしてD2歯科臨床・臨床入門(歯科病院)を実施しました。各教室、診療科、歯科病院看護部、歯科衛生室、事務等大変多くの方々にご協力をいただき、この場を借りて感謝を述べさせていただきます。このユニットは、臨床入門(歯科医師将来像)および入門実習(歯科病院付添実習/ユニット操作と診察体験/印象採得と診察の体験)の二つにわかれており、6月25日のガイダンス(旗の台)に引き続き、歯科病院では6月27日、7月4日、11日の3回の実習と7月18日の発表会で入門実習を実施しました。

個々の技法を教授するのが第一の目標ではなく、歯科医師とはどのような職業か、実際の医療の現場を見学だけでなく患者・術者の視線から体験する、今後学習していく個々の専門知識や技術の全体像を把握することなどが目的です。各科横断型の実習スタイルを採用しましたので、各専門診療科で使用している器材や技術に必ずしも完全な一致をしない部分もありますが、概ね当初の目標に近い結果を得られたものと思います。

学生にとっては専門知識の十分でない段階でしたので、内容、態度、心構えなどについての事前説明に時間をさきました。未経験の実習実施スタイルであり、また一般診療が行われている中の一角を用いての実習でしたので、各科からベテランの先生方にご参加いただき、かつ員外助教や研修医の先生も指導に加わっていただきました。通常の実習に比較して教員一人あたりの受け持つ学生人数が少ないのですが、



より深みのある指導になったと思われます。

今後よく反省をし、昭和大学歯学部臨床参加型教育として来年度以降のカリキュラムに反映させていくように考えております。

受賞

広報委員長 井上 富雄

・岡根百江(高齢者歯科学 助教・員外)
平成20年6月19日に岡山で開催された第19回日本老年歯科医学会において、優秀奨励論文賞を受賞されました。

論文題名: 口腔乾燥感の客観的評価法に関する検討

・佐藤裕二(高齢者歯科学 教授)

平成20年7月11日に東京で開催された第27回日本歯科医学教育学会において、奨励賞を受賞されました。

論文題名: PBLチュートリアル教育の省力化とその評価



USCの学生が選択実習に来校します

学生国際交流支援委員会委員長 山本 松男

平成20年8月18日から2週間、国際交流の提携をしている南カリフォルニア大学歯学部から2人の学生を迎えます。昨年に引き続き、昨年度、本年度昭和大学選択実習や国際交流で御世話になった本学歯学部学生との交流を含め、基礎教室、臨床教室の先生方のご協力もいただきながら、国際交流をますます盛んにさせて頂きたいと考えています。

診療統計(平成20年6月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日 平均	前年1日 平均
外来患者	17,748	709.9	703.5	692.6
入院患者	394	13.1	15.1	9.8

編集後記

小児成育歯科学教室 池田 訓子

昨年7月は新潟県中越沖地震がありましたが、今年の7月は岩手・宮城内陸地震や岩手県沖の地震と大きな地震が立て続けに起こり、最近の地震の多さには不安なものがあります。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。被害に見舞われた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、お忙しい中ご執筆くださった多くの先生方に心から感謝いたします。今号は編集の不手際から、発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。